

令和 2 年度美術実技講座 「自分だけのご朱印帳をつくって書いてみよう」 を開催しました

美術実技講座は、アーティストの造形表現や制作活動について、実際に手を動かしながら参加者に体験してもらうことを目的とした教育普及プログラムです。大人の方にもお子さんにも楽しみながらアートに触れていただくことができる機会として、毎年大人気の講座となっています。

今回は複数の神社でご朱印帳のデザイナーを務め、ご自身も神職資格を持つ日本画家・フジイフランソワさんを講師に招き、いろいろなパターンのスタンプなどを組み合わせて表紙をデザインし、実際に神社で使われている材料を使って自分だけのご朱印帳をつくることに挑戦しました。

日 時	大人向け（高校生以上）：12月5日(土) 午後1時30分～4時30分 子ども向け（小中学生）：12月20日(日) 午後1時30分～4時30分
受講者	12月5日(土)：15名 12月20日(日)：17名（うち保護者等5名）
講師	フジイフランソワさん（日本画家）

* * * * *

ここ数年、若い人たちを中心に「ご朱印集め」がブームとなっています。人気の神社では授与所に行列ができることも。そんな空前のブームの弊害か、中にはご朱印だけもらって、参拝せずに帰ってしまう方もいるんだとか。

「ご朱印帳を楽しく作りながら、ご朱印の本来の意味も伝えられたら…」

近年のブームを憂いながら見守ってきた担当学芸員は、3年前に当館で企画展「フジイフランソワ展—はなからさらさら気にならぬ」を開催させていただいたフジイフランソワさんに相談し、今回のワークショップを開催することとなりました。



担当学芸員が10年がかりで
集めた各地のご朱印



フランソワさんが
デザインしたご朱印帳

はじめにフランソワさんからご朱印や厄除けなどのありがたいお話をいただき、いざご朱印帳づくりがスタート。まずは消しゴムハンコなどを使って、和紙にご朱印帳の表紙をデザインしていきます。あらかじめフランソワさんがたくさんのオリジナル消しゴムハンコをご用意くださいましたが、受講者の多くが「自分でも彫ってみたい!」と、消しゴムハンコ彫りから挑戦。「中学校を卒業して以来ウン十年、彫刻刀を持つ機会なんてなかったよ」という大人の方から、まだ学校で彫刻刀の使い方を習っていない低学年のお子さんまで、フランソワさんの丁寧な指導のもと、続々とユニークなオリジナルハンコを作りあげていきました。



フランソワさんデザインの
消しゴムハンコ

ハンコにアクリルガッシュで色を組み合わせ、表紙のデザインを完成させたら、ご朱印帳の台紙に貼って組み立てていきます。今回ご用意したご朱印帳の材料は、実際にご朱印帳を神社仏閣に納めている専門業者のもの。神職資格を持つフランソワさんが講師だから特別に扱わせていただくことができた、ふだんは入手できないありがたいものです。



ワークショップの様子

できあがったご朱印帳の1ページ目に、本物のご朱印のように日付や場所（美術館）の名前を書かれる方や、フランソワさんのサインをいただく方も。自分だけのご朱印帳がみごとに完成しました。

受講者のみなさんが
制作したご朱印帳



さて、三岸節子記念美術館×フジイフランソワといえば、そう、コラボ和菓子。2018年の企画展「フジイフランソワ展」のときは、座敷わかし「ベロりん」とん」が大好評でした。せっかくですので今回もワークショップにあわせてコラボ和菓子を作ろう！と、「ベロりん」とん」でも大変なご尽力をいただいた尾西金蝶堂さんをお願いし、コラボ和菓子第2弾を開発しました。

コラボ和菓子第1弾「ベロりん」とん」



コロナ禍にちなみ、今回のテーマは「アマビエ」。海から姿を現したアマビエを、海はわらび餅、体は練り切り、髪はいちごで表現していただきました。アマビエは江戸時代に海に現れ、目撃者に「疫病が流行するから私の姿を写して人々に見せなさい」と語ったとされる妖怪です。そして言われた通りに役人が写したのが、あの有名な『肥後国海中の怪（アマビエの図）』です。

コラボ和菓子第2弾「アマビエ」



肥後国海中の怪（アマビエの図）
（京都大学附属図書館所蔵）

アマビエに関する歴史上の記述はこの図版しか存在しないため、あたかもこれがアマビエの実物の姿としてコロナ禍で流布しましたが、フランソワさんいわく、これは「あくまで役人が実物を一瞬目撃して描き写したもの」のこと。フランソワさんは今回の企画に合わせ、この図版から実際のアマビエの姿を想像し、新作《アマビエ図》を描き下ろしました。コラボ和菓子「アマビエ」は、

（フランソワさんが想像したような姿であろう）実物のアマビエを尾西金蝶堂さんが目撃し、和菓子職人の技術と感性で再現したもの、という設定になっています。フランソワさんの《アマビエ図》には、「むかし夜の海にあらはれしアマビエ／実物はいかなりけむ見てしがな／ともあれその写し見れば疫病退散／いはんや写し菓子厄除けかなふべし」と書かれており、「実物はどんなものだろう？見てみたいなあ。とにかく模写を見るだけで疫病退散なら、模した和菓子を食べれば厄除けが叶うに決まっているよね！」との意味が込められています。

フランソワさんが神道の儀式にのっとしてしつらえた《アマビエ図》を祀った祭壇には、ほとんどのお客さんが購入した和菓子「アマビエ」をお供えし、疫病退散・無病息災を祈願していました。はたから見るとヘンテコな様子かもしれませんが、人は厄災に直面したとき、いつの時代も人智を超えた存在にすぎるもの。フランソワさんと尾西金蝶堂さんが祈りを込めてつくったアマビエは、きっとみなさんの願いを受け止めてくれたことでしょう。（学芸員 長岡昌夫）

フランソワさんがしつらえたアマビエ祭壇に祈りを捧げる人

